

一段上のステージへ



取得した資格：技術士（建設部門）
資格取得年度：令和元年度

なかやしき ようすけ
中屋敷 洋介*

受験の動機・経緯

愛媛県に入庁する前は、民間の総合設計コンサルタントに勤めていました。その当時、官公庁等発注者から信頼を得るために、管理技術や専門知識の向上を図って、最低限必要と考えられる資格（RCCM・土木施工管理技士等）は取得していました。

しかしながら、これら資格があっても発注者が技術士だったとき、相手が大きく見え、思わず身構えたことを思い出します。技術士の試験は難しい…論文があって面接まである…五大国家試験の一つ…受かるものではない…といった声を周りから多く聞いていましたし、余計に。

技術士の本質を理解しないまま、技術士第一次試験を受験、合格し、第二次試験の受験を決意したとき、初めて試験内容を書店で確認しました。本をめくると、最初のまえがき。技術士は「三大義務と二大責務を負っているプロの技術者である」と。何のことかよく分からないまま、ポジティブに自分が取得したときのイメージを膨らませながら、ページをめくっていくと、記述論文の量の多さ、求められる質、さらには出願時点で小論文が必要など、ハードルの高さを痛感したところ。率直に、知識（暗記）どうこうの試験ではないと、ネガティブな思考とな

りました。

技術士第二次試験は、第一次試験を合格し相当の実務経験を持つ技術者のみが受験者である中、合格率が近年、一桁台（建設部門）と低く、容易に取得できる資格ではありません。

だからこそ、技術の分野で最も権威ある技術士資格を取得し、技術者として信頼され、より大きな仕事を任されたいと考えたことが、受験の動機です。

筆記試験における傾向と対策

技術士二次試験は、他の資格試験と違って、専門知識の量を披露する場ではありません。もちろん相当の専門知識は必要となりますが、合格するためには、ロジックを試験時間内に的確に組み立て、題意に沿って分かりやすく記述する必要があります。いかに良い論文でもこれを満足しないと高評価（合格論文）にはならないと考えられます。これらを理解したうえで、筆者の筆記試験に向けた対策は次のとおりでした。

○国土交通省重要政策の理解と応用

- ・国土交通省の社会資本整備審議会道路分科会の資料等に目を通しながら、自分なりに、政策の課題、問題、課題解決、それに生じるリスクを

*愛媛県 東京事務所 企画調整部 副課長

イメージ。

○題意に沿うことの日常からの意識改革

- ・題意に沿うことは、日常業務でいえば上司や幹部の意図を理解し求められる成果をあげることであり、自己満足の作成資料（論文）では良い評価（結果）にならないことを日常から意識。

大きくはこの2点で、とにかくアウトプットを重視しました。筆記試験では、技術部門全般および選択科目についての専門知識、応用能力、問題解決能力及び課題遂行能力が求められ、合計5,400文字を記述する必要があります。試験現場では、問題の本質を見抜く力と、最後まで諦めない粘り強さが重要と考えます。

口頭試験における傾向と対策

筆記試験合格を確認してすぐ勉強を開始しました。口頭試験日はあらかじめ決められており、筆者は筆記試験合格日から1か月半程度ありました。その期間が長いのか（早く終わって安心したい気持ち）、短いのか（準備が間に合うのか不安な気持ち）、複雑だったことは鮮明に覚えています。口頭試験の舞台は東京、筆記試験をクリアした者だけが受験できます。試験官はプロ中のプロ。合格するという強い意思をもち、筆者の口頭試験に向けた対策は次のとおりでした。

○コンピテンシーの理解

- ・令和元年度の試験改正により明確になった技術士に求められるコンピテンシーの本質を理解。

○技術士3義務2責務の理解

- ・冒頭で触れた、3義務として、信用失墜行為の

禁止、秘密保持義務、名称表示義務、2責務として、公益確保の責務、資質向上の責務。これらを技術士として果たさなくてはなりません。よってこれらを理解することは合格のための最低条件。

○想定QA作成と模擬試験の実施

- ・想定QAは細かい点を含めると100個程度作成。
- ・模擬試験は2回（技術士の上司、セミナー）

大きくはこの3点で、とにかく万全の準備を整え、考えられる不安要素を取り除くことが望ましいです。試験現場では、試験官と上手くコミュニケーションを図ることと、技術者としての謙虚さが重要と考えます。

受験者へのアドバイス、励まし等

技術士を取得すれば、これまで以上に人とのつながりが増え、技術者として大きな財産になります。

技術士は、高度な技術ならびに倫理を有していると国家が認めてくれた技術者最高資格であり、技術の分野では最も権威のある資格です。これから受験を考えている方、特に第一次試験を合格している方は、是非挑戦し、技術者として、もう一段上の新たなステージを目指してください。

【著者紹介】 中屋敷 洋介（なかやしき ようすけ）

昭和54年生まれ。平成14年松山市の総合設計コンサルタントへ入社。社会インフラ全般の設計に従事。平成25年退社後、平成26年愛媛県に総合土木職として入庁。県内の土木事業に係る企画立案及び総合調整、技術向上研修、道路整備事業の計画、監督等を担当。南予地方局大洲土木事務所道路課技師、本庁土木管理局技術企画室主任を経て現職。